

# 華頂 7/8月号 2019



## 御影堂に活かされて

総本山知恩院門跡

伊藤唯眞

いよいよ来年には御影堂の落慶を迎えます。大修理に際し、浄財を寄せていただいた皆様に心より感謝申し上げます。落慶法要では、御影堂に法然上人の御影をご安置申し上げます。そして御影に向かつて手を合わせ、念仏を称える浄土宗徒で溢れることでしょうか。讃仰し、報謝の誠を捧げる人々がいるからこそ、御影

堂には命が宿るのです。もしも念仏の声が絶えてしまったら、御影堂なる建造物でしかありません。法然上人の精神を受け継ぐ浄土宗徒が必ずいてくださることが大切です。そのために我々には、お念仏の教えを自ら励み、他の人にも勧めていく責務がある、と思わなければなりません。

法然上人の宗教は、お念仏でしか万民が平等に救われる道はない、という点で革新的でした。権力や富を持つ者も持たない者も、男女の別もなく、学問のあるなしに関わらず、皆同じ地平に立ち、和楽して心をひとつにする。落慶法要も、このことを心に刻み付ける良き機会であります。

念仏信仰者が僧俗を問わず集まり、御影堂落成を慶び、支援してくれた人々に感謝し、そして集うもの全てが法然上人の精神を繋いで、お念仏を称えていただきたいと思います。御影堂に響く念仏は御影堂の命となりその声が続く限り御影堂は次代に伝えられていくのであります。

倉吉 大蓮寺 第廿八世住職 賢譽照純 (福嶋照純) 儀 去る  
六月十七日 正念往生致しました

此処に謹んで生前のご厚誼を深謝し、ご報告申し上げます  
尚 密葬は六月二十日 法類・近親者にて相営みましたが

表葬儀(本葬)は左記の通りの日程にて執り行います

### 記

一、日時 七月二十三日(火)午前十一時より

一、場所 大蓮寺 本堂

倉吉市新町一丁目二四二一番地

法界山華剎院 大蓮寺

遺弟 福嶋慶純

檀信徒総代 廣吉宗一

檀信徒総代・役員一同・親戚一同

法類総代 福嶋法爾

※ 大蓮寺檀家葬として執り行いますので 遠来(境港等)

よりの御弔問・御香志は謹んで御辞退申し上げます

何卒 宜しく御了承下さい

法号 聖蓮社賢譽上人采阿論愚照純大和尚 莊嚴浄土

光祐寺 第廿四世 然譽法爾 合掌

御影堂の今を、お伝えします

# 御影堂

修理ニュース



御影堂の周りを取り囲んでいたフェンスが撤去されました。まだ内部の拝観はできませんが、建物のすぐ近くまで行けるようになりました。来年の落慶法要に向けて、これから堂内の仏具莊嚴を整えていきます。

またフェンス撤去に伴い、知恩院七不思議の1つである「忘れ傘」も見ることができるようになりました。



正面向かって右側の軒裏に「忘れ傘」が見える



## 落慶法要

令和2(2020)年4月13日～15日

13日

「浄土宗総本山知恩院国宝御影堂落慶御遷座法要」

14日

「浄土宗総本山知恩院国宝御影堂落慶御遷座披露法要」

15日

「浄土宗総本山知恩院国宝御影堂落慶御遷座宗門慶祝法要」

## 落慶記念団体参拝

受入期間

令和2(2020)年5月1日～10月15日

※月のうち1日～15日(8月は除外月)

団参冥加料

無料

※ご希望の場合 バス駐車場、記念写真、朱印、別回向等は有料

お問い合わせ

総本山知恩院 御影堂修理事務局 TEL (075)531-2241

知恩院ホームページの「御影堂大修理だより」で、これまでの工事内容を詳しくご紹介しています。



北から南から

# 法話エッセイ 「夏の花」



## お盆特集

お盆ですね  
感謝の心で  
ご先祖の供養を

夏の花といえば、私はサルスベリを思

い浮かべます。ジリジリとした日差しの中、お盆参りの道中で口にする、弾けるような赤や桃色の花は、お盆が来たことをあらためて実感させてくれます。

このサルスベリを意識したのは、さだまさしさんの『解夏』という小説を読んだから。この小説の最後に描かれる、消え入るようなサルスベリの情景から、どんなに綺麗な花であろうと思っていたら、何のことはなく、家の近くの生け垣からせり出すように咲いていました。それまで気にも留めていませんでしたが、夏空にとっても映えていて、それ以来、その鮮やかな色合いを目にするたび、夏であることを、お盆であることを、『解夏』という小説を、思い出す



ようになりました。

タイトルの「解夏」とは、仏教に関することばです。仏教発祥の地であるインドでは、古くから雨季に生き物を殺さないよう、僧侶が外出せずにひとところで行をして過ごす「安居」という習慣があります。解夏とはこの安居が終わることを指すことばです。それは旧暦の七月十五日、お盆行事が行われるのはまさにこの解夏の時期にあたります。このタイトルとサルスベリとお盆行事は、思いもよらず繋がりがあつたのです。

今日（こんにち）の日本のお盆行事は、母親への供養が説かれる『盂蘭盆経』をもとに、先祖供養の行事となつて飛鳥時代にはじまったものです。中国から朝鮮半島を経由して伝来した仏教は、日本の中で大切に守り続けられながら、多くの時代とさまざまな文化を経ることで、それぞれの地域によって大きく異なるかたちを見せています。サルスベリが日本で育てられるようになったのは江戸時代とされますが、今では日本の夏を彩る情景の一部になっています。

“先祖供養”という想いは変わらず、花を愛でるといふ想いも変わらず、新たな文化を織り交ぜながらも、手を合わせて願っていききたいものです。

## ○お盆の灯りについて

お盆の「灯り」と聞き思い浮かぶのは、「迎え火」と「送り火」が多いのではないのでしょうか。迎え火は帰ってくるご先祖さまが迷わないための目印、送り火はお浄土にお戻りになるのを見守るためといわれています。

各地には、灯りを用いたさまざまな盆行事があります。青森のねぶた祭りや秋田の竿燈祭りは、ご先祖さまをお迎えする行事の一つとも。一方、川面を照らす光景が幻想的な灯ろう流しや夜空を照らす大文字などは、ご先祖さまを送り出す意味が込められています。

こうした「灯り」にまつわる盆行事が行われているのは親しい方との別離の悲しみ、ご先祖さまへの感謝など、さまざまな想いを受け継いでいるからなのです。



Q

## 功德を積むと

どうなるのでしょうか？



田中賢祐 (63)

知恩院 電話相談室 室長  
「ただ一向に念佛すべし」

A

徳を積むということは善行を行うことで、徳のなかでも最も尊いのは「陰徳」です。「陰徳」とは辞書によれば「人に知られないように施す恩徳」とあります。

司馬温公という人の家訓ですが「金を積んで以って子孫に遺せども子供未だ必ずしも能く守らず、書を積んで以って子孫に遺せども未だ必ずしも能く読まず、冥々の中に陰徳を積んで以って子孫長久の計はかりごとと為すに如くはなし」とあります。お金を遺しても子供は守らず、書を遺しても子供は読みませんが、陰徳を積みば子孫長久すなわち繁栄するということです。

私達は神社仏閣にお参りをして功德とかご利益を求めますが、人知れず積み重ねていく見返りを求めない徳（善い行い）こそ陰徳なのです。

A

仏教は、生死解脱しやうじげだつ（輪廻の絆を断ち切り苦しみ迷いの世界から離れること）を目指します。ご質問を善い行いには善い報いが、悪い行いには悪い報いがという因果の道理の上に見ますと、仏道修行（功德を積む）という善行の結果として得られるものは生死解脱であります。ところが一口で仏道修行と申しましたが、煩惱が邪魔をして中々それが完遂出来ません。阿弥陀様は、そんな私達をどうか救ってやらねばならんと、私達が積もうと思っても中々積めない功德を一所にグッと集めて私達に与えて下さったのがお念仏なのです。浄土宗では誰もが出来るお念仏という究極の善行をしていただき、西方極楽浄土への往生という最高の結果を頂戴するのでございます。どうぞ日々お念仏精進くださいませ。



鷺尾純昂 (38)

奈良教区 來迎寺  
「色々なお香と開香するのが  
趣味です」

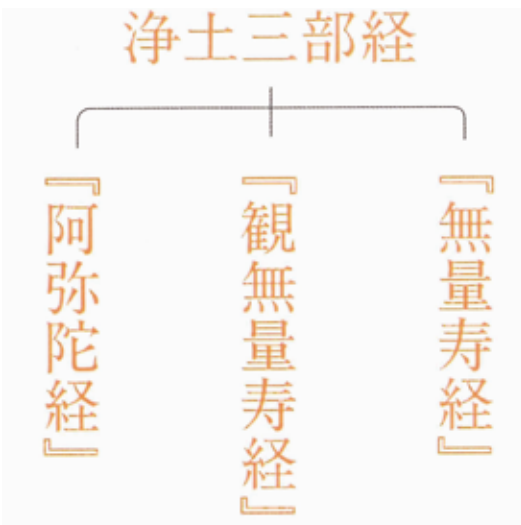
お坊さんへの質問・相談を募集しています。

送り先  
〒605-8686 京都市東山区林下町400  
知恩院内「華頂」編集係宛  
郵便番号・住所・氏名・電話番号を必ず  
お書きください。



# 浄土三部経

【じょうどさんぶきょう】



浄土宗の拠り所とする経典は「浄土三部経」です。「無量寿経」「観無量寿経」「阿弥陀経」の3つの経典で法然上人自らが選定されたものです。日常のお勤めで読誦している「四誓偈」は「無量寿経」、「佛身観文」は「観無量寿経」の二節です。4月に行われる知恩院の御忌大会では1週間の法要で「浄土三部経」すべてを読誦いたします。

阿弥陀如来がすべての人々を救うために設けられた浄土と、人々を救うために示された四十八の本願について説かれた経典。

阿弥陀如来の浄土と仏・菩薩を観想する方法、そしてわれわれ凡夫は阿弥陀如来のみ名を称えることにより浄土に往生できることが説かれた経典。

阿弥陀如来の浄土が、この上なく素晴らしいことが説かれ、六方諸仏が念仏の教えの正しいことを証明し、その行者を護ることが説かれた経典。



知恩院浄土宗研究所嘱託研究員 安達俊英

## ●『三身礼』『三尊礼』と総括

### 一、「三身礼」と「三尊礼」

先回は「送仏偈」をご紹介しました。最後の一句についてかなり細かな検討を致しましたが、結局「どうか仏さま、本国へお帰り下さい。華を散らしてお見送ります。なにとぞ本国から私たちをおまもり下さい。私たちも必ず極樂に参ります」というような意味で御理解頂いたらいかと存じます。

さて、これで「日常勤行」の次第はすべて終了ということになるのですが、浄土宗が発行しております「浄土宗信徒日常勤行式」(第三版)には、これまでの連載で取り上げなかった偈文がいくつかございます。その中から「三身礼」と「三尊礼」を簡単にご紹介しておきましょう。

まずは「三身礼」。これは「三唱礼」の代わりに唱えられる偈文です。西方極樂世界の阿弥陀仏に南無(＝帰依)しますということを、阿弥陀仏の三つの功德を讃えつつ、三回述べます。その功德と「本願成就身」(本願を成就された方)、「光明摂取身」

(その光明で私たちを摂取してくださる方)、「来迎引摂身」(臨終に来迎・引摂してくださる方)の三つです。

次に「三尊礼」。葬儀や法事などの少し大きな法会において、読経の後に唱えたり致します。善導『往生礼讃』が出典で、阿弥陀仏とその脇侍である観音菩薩・勢至菩薩の三尊を讃えています。独特の節を付けて唱える点に特色があります。三段からなり、各段は最初に阿弥陀仏への帰依最後に皆ともに極樂に往生しましょうということとを述べ、その中間部分で三尊が順次、一尊ずつ讃えられてゆきます。

まず阿弥陀仏については、「そのお姿は金山のようで、光明は全世界を照らし、念仏する者のみはその光明を蒙る。このように阿弥陀仏の本願は何にもまして頼もしい。また六方の仏さま方も証明しておられる、阿弥陀仏の名号を称えたら極樂に往生できることを。往生すれば蓮の花が開いて仏の教えを聞き、菩薩の行が自然に身につく」と讃えます。

次の観音菩薩については、「既に悟りを得ておられるのであるが、人々を救おうという大慈悲のゆえに、あえて仏と成らず、迷いの世界の存在をすべて白身の中に収め、常に人々の様子を御覧になって寄り添われている。その身体と光明は紫金色で姿や立ち居振る舞いは喩えようもなく素晴らし

い。常に百億の光の手を差し伸べて、縁をもつ人々を極樂へと導かれる」と讃えられます。

最後の勢至菩薩については次のように讃えられます。「私たちの思議を超えており、その威光は全世界を照らしている。縁ある人がその光を蒙れば素晴らしい智慧が得られる。この菩薩が歩くときは世界が震動し、座ついているときには化仏が雲の如く空中に満ちる。縁ある者に広く勧める、この菩薩を常に念じて、生死輪廻を断ち切って浄土に生まれ六神通を得よと」。

なお、「浄土宗信徒日常勤行式」にはこの他に、「二紙小消息」と「食前のことば・食後のことば」が掲載されていますが、紙幅等の関係で割愛させていただきます。

### 二、「お勤め」の際の留意点

さて、最後に少しだけ留意点など。まず、日に何回「お勤め」すべきかということですが、もともとは一日を六つの時間帯に分け、その都度唱えるべきとされてきました。でも、それは相当に困難なこと。ですので、現実には朝夕二回、もしくは朝だけや夕方だけなどの一回でもよろしいでしょう。

また、時間がないうきなどは、適宜短縮されてもいいかと存じます。ただし、日常勤行の中心である念仏だけはカットされませんように。



# 光祐寺報

更に念仏は日常勤行式の時以外でも随時（たとえばお風呂の中や就寝前のふとんの中でも）お称えいただければ幸いです。

あと、お仏壇に拝むときはあくまで浄土宗の信仰対象である阿弥陀

仏に対して念仏・読経なさるようになさいます。ややもするとお位牌を拝んでしまいますが、それは正しくありません。阿弥陀仏に『南無』してこそ、本当の御念仏となり、それによってはじめて果報が得られるわけですから。よってまずは、ご自身の往生を願って阿弥陀さまに念仏・読経し、その上で、兼ねてご先祖さま等への回向を念じればその功によって阿弥陀様がご先祖さまを極楽に導かれ更には極楽での仏道修行も増進させて下さる



ことになります。

以上、数十回にわたり浄土宗の『日常勤行式』を解説して参りました。今後皆様も日々「お勤め」を続けてゆかれることを念じ

ております。永らくのご愛読、有難うございました。

**浄土宗のお勤め（終わり）**

○詩人伊藤比呂美さんが詠む

「三身礼」 「三尊礼」

おまかせいたします。西のほうの

くるしみのない あの世界で（わたしたちをすくおつとら）

願いをかなえてくださるかた、あみださま。

おまかせいたします。西のほうの

くるしみのない あの世界で（わたしたちをすくうための）

光をてらしてくださいるかた、あみださま。

おまかせいたします。西のほうの

くるしみのない（わたしたちのすくわれる）あの世界へ

つれていってくださいるかた、あみださま。

# 棚経の日程

宛名の下に棚経日(日付・順序)を明記していただきますので、ご確認ください。

15日	13日	12日	11日	10日	9日	8日	7日	6日	5日	4日	3日	
午後8時からおぼん <b>せがき</b>	馬場崎町	馬場崎町(西)	大正町・明治町(大正川より西)	松ヶ枝町・栄町・本町・白ノ出町・京町	末広町・中町・元町・湊町 明治町(大正川より東)	東雲町・朝日町・東本町・相生町	岬町・上道町(東部)・花町・入船町	浜ノ町・蓮池町・米川町・芝町 弥生町・清水町・外江町(北部)	中野町・福定町・上道町(西部) 竹内町・美保町・高松町・新屋町	富益町・夜見町・誠道町・幸神町・夕日ヶ丘 財ノ木町・上道町(南部)・渡町・外江町(南部)	米子市	松江市・岸本町・溝口町



昨年と同じ行程ですので同様の時間にお参りする予定です



# みそなめ地蔵祭

午後7時～  
**8/23(土)**  
前夜祭

踊り (鬼太郎音頭・さんご節・出雲音頭)  
花火大会 7時45分～  
Dr. 市場のマジックショー  
8時30分

ヒップホップで盆踊り  
キッズダンスショー  
23・24両日 7時15分～

都合によりプログラム内容・開催時間を変更することもあります  
浄土宗ともいき財団 助成事業  
SUPPORTED BY JODO SHU TOMOKI FOUNDATION

屋台もあるよ!

焼きそば わたがし  
かき氷 フランクフルト  
などなど...!

# 光祐寺(馬場崎町)



**8/24(日) みそなめ地蔵 本祭** 午後8時30分～大漁太鼓  
午後7時～ 協力: 境港大漁太鼓荒神会・鬼太郎音頭保存会・境婦人会

## 僧なんです。デジタル化



## 華頂

第616号  
令和元年7月1日

発行所 浄土宗総本山知恩院  
京都市東山区林下町おつぎ運動本部  
TEL: 075-541-5142(代)  
FAX: 075-541-0224

全園生産  
350ml PET  
お1〜24本  
¥2,100(税別)

好評発売中  
お茶

TEL: 075-541-5141 FAX: 075-541-5143  
E-mail: jgyo-kami@netnic.or.jp